

各地域のミドルリーダーと連携した地域開催研修講座の取組

成田 一之慎・飯嶋 祐也

北海道は、国土の約20%を占める一方、人口は全国民の約4%であり、広域分散型社会を形成している。当センターでは、広域な北海道において、教員の実践的指導力の向上を図るため、平成26年度から各地域のミドルリーダーを「小学校理科研修サポートリーダー」として委嘱し、連携しながら研修講座を実施している。今年度までの取組について報告する。

〔キーワード〕 小学校 研修講座 地域 サポートリーダー

はじめに

当センターでは、夏期と冬期の長期休業中に研修講座を実施しているが、「距離が遠く、参加できない。」という声がある。また、受講者が遠方から参加することになると、旅費が高額になることから、各講座における定員は20名前後が限界である。このような広域性の問題により、当センターの所員による研修だけでは十分な効果が得られていない。

そこで、平成28年度から各地域において中核的な役割を担う教諭の中から、「小学校理科研修サポートリーダー（以下、サポートリーダー）」を委嘱し、研修講座の実習支援を依頼している。

サポートリーダーは、いずれも各地域において幅広い人脈や高い実践的指導力をもつ教員であり、今年度は15名に委嘱した。

1 小学校理科研修サポートリーダー研修講座

5月19日に、全サポートリーダーが参加し、後述の小学校理科地域開催研修講座における支援内容について共通理解を図ったり、各地域や学校における取組について実践交流を行った（図1）。



図1 実践交流の様子

本講座では、実際に地域開催研修講座で実施する観察、実験を行いながら、支援の際に留意すべき点について詳しく伝達した。

また、実践交流では、サポートリーダーが所属する研究団体の紹介や、実践した授業について交流を行った。

2 小学校理科地域開催研修講座

(1) 概要

「当センターまでの距離が遠く、研修に参加できない」、「観察、実験の基礎的な知識や技能を身に付けたい」というニーズに対応するため、平成28年度から北海道内の6地域において、理科の基礎的な指導法を研修したい教諭等を対象に、観察、実験などに関する基礎的な知識、技能について研修し、実践的指導力の向上を図る「小学校理科地域開催研修講座（以下、地域開催研修講座）」を開催している。平成28年度は68名、平成29年度は60名が受講した。

(2) サポートリーダーによる実習支援

地域開催研修講座では、各会場あたり2～4名のサポートリーダーに支援を依頼し、受講者の実態に合わせ、適宜アドバイスを行っていただいた。素朴な疑問についても、サポートリーダーがその場で答えたり、講師に質問内容を伝えて全体で共有したりするなどして、講師と受講者との間をつなぐ「架け橋役」となっていた。

受講者には、今後不安なことや分からないことがあれば、当センターだけではなく、サ

ポートリーダーに質問してもよいことを伝え、受講後のサポート体制を充実させることができた。また、サポートリーダーが所属する研究団体や、企画した研究会について紹介する時間を設定し、各地域における理科教育のネットワーク構築を図る機会となった。

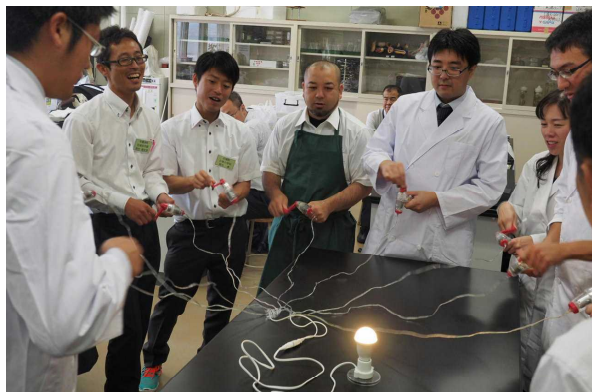


図2 地域開催研修講座の様子

(3) アンケート結果

地域開催研修講座の事後アンケートを集計すると、全受講者が「大変満足」又は「概ね満足」と回答していた。

【主なアンケート記述の抜粋】

- 今回の研修に参加して、苦手意識や不安な気持ちがなくなり、本当に良かった。
- サポートリーダーの先生がたくさんいて、近くで教えてくれたり、実践の話をしてくれたりしたのが、とても良かった。
- 手順が分からず困ったときに、サポートリーダーの先生に助けていただいた。
- 同じ地域に、困ったら相談できる先生がいることを知り、とても安心した。

地域開催研修講座の満足度は、当センターで実施した他の小学校研修講座よりも高く、サポートリーダーの存在が受講者にとって大きいことが分かった。

3 その他のサポートリーダーの取組

(1) 各地域における理科研修会の講師

北海道では、各地域の教育研究所や研修センター主催の理科研修会、研究団体の実技研修会が開催されており、当センターにも年間

10件程度、講師派遣の依頼がある。依頼には可能な限り応えるよう対応しているが、日程が調整できず、派遣できないことがあった。そこで、サポートリーダーに講師になっていただき、機材を提供するなどして支援を行った。今年度は2会場において、サポートリーダーが講師の研修会が開催された（図3）。



図3 サポートリーダーが講師を務めた研修講座の様子

(2) 教材の共同開発

当センターでは、積極的に教材開発に取り組んでいるが、所員が直接授業を行う機会がないため、効果について検証することが難しい。そこで、サポートリーダーに実践を依頼し、その効果と課題について検証する取組を行っている。また、既に研修講座等で紹介している教材についても、サポートリーダーに実践していただいた結果から、教材の形状や作り方について改善を図ることができた。

まとめ

各地域のサポートリーダーと連携して地域の研修講座を行うことにより、小学校教員の理科の指導に対する苦手意識の克服と、各地域における理科教育の発展・充実への第一歩を踏み出すことができた。今後も、より一層サポートリーダーと連携し、北海道の広域性に対応した取組を進める所存である。

謝辞

担任業務や校務でお忙しい中、研修講座を支援して下さった15名の小学校理科研修サポートリーダーの皆様に感謝いたします。

(なりた いちのしん 義務教育研究班)
(いいじま ゆうや 義務教育研究班)